

江戸時代の人体解剖といえ、何と言っても『**体新書**』翻訳のきっかけとなった江戸小塚原の腑分けが有名です。

当時の解剖は「腑分け」とか「開臓」などと呼ばれ、現代の進んだものとは違って、刑死体の臓器を観察する程度でした。しかし、それが次第に全国各地に広まるにつれ、臓器の働きを調べようと、実験に挑戦する医師も現れ始めました。

さて、小塚原の腑分けから21年が過ぎた寛政4年（1792）、藩主の参勤交代に伴ってお国入りした藩医・宇田川玄随の願いで、津山で初めての開臓が行われました。今から216年前、場所は現在の伏見町の一角でした。

ちょうどこの年、玄随は10年に及ぶ西洋内科書『西説内科撰要』の翻訳を終えたばかりでした。江戸蘭学界で活躍する玄随が開臓を行うと聞いた他の津山藩医たちも、じつとしてはいられません。嶋崎周栄、河合玄碩、丹治隆玄、川嶋修安、遅れて井岡洞安の5人が参加を願ひ出ています。玄随の弟子だった町医者・田外玄洞と高島道友も助手として参加を許されました。

10月19日の朝、刑場で処刑された囚人の遺体は牢屋へと運ばれ、いよいよ開臓が始まりました。玄随はもちろん、ほかの医師たちも緊張と興奮で胸を高鳴らせながらその時を迎えたことでしょう。

『町奉行日記』によれば、この時使った道具は、玄随が自ら準備したようです。ということであれば、おそらくは玄随の指導のもと、江戸から持ち込んだ西洋の解剖学書とも比較しながら、かなり先進的な実験も試みたに違いありません。

筆 漫 覧 博 学 洋

～津山で行われた「開臓」～



▲開臓が行われた牢屋周辺

立ち会った医師たちは大きな刺激を受けたようで、若い高島道友は1年半後に玄随を慕って江戸に旅立っています。この開臓で玄随が教えたのは、知識だけでなく、情熱だったのかもしれない。

※透かしの家紋は右が箕作家、左が宇田川家のもの



編集・発行 (毎月10日発行)
津山市総合企画部市長公室 (市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



各所で開催された夏祭り。それぞれに個性豊かな花火を楽しみました。打ち上げの最中に雨が降ったりとハプニングもありましたが、空一面に広がる花火にうっとり。感激し過ぎて肝心の写真は…(汗)でした。(＆)

たくさんの感動をくれた北京オリンピック。今月の「ひっぱる…」では水島宏一さんを紹介させていただきましたが、水島少年と体操との出会いは印象的でした。「これだ!」と思えるものに会えるって幸せなことですね。(和)

つ・ぶ・や・き

編集室

図書館の利用方法はそれぞれ。一学期が終わっても開いているので、列車の間まで利用できる「便利」一層の上で読書ができ、窓の外に目をやると備中が見えるところがいいんだよね。あなただけの楽しみ方を見つけてみませんか。(こ)

7月中のひとの動き

人口	109,814人(前月比△2)
男	52,329人(同△17)
女	57,485人(同+15)
世帯	43,793世帯(同+50)
転入	253人
転出	259人
出生	86人
死亡	82人

(8月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

